

# どがなかな 木回市です!!

## 第71回全国植樹祭が開催されました

令和3年5月30日、大田市三瓶山で第71回全国植樹祭が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期となりましたが、当日は晴天に恵まれ、約1,000人の方が参加をされました。

今大会では、天皇皇后両陛下にオンラインでお出まじただき、両陛下にお手植え、お手播きを、天皇陛下には全国植樹祭史上初めてとなる御収穫を賜りました。

今回参加された市民の方々や子どもたちが「緑の循環」を体験でき、豊かな森林を未来に引き継ぐための循環型林業の推進を大田市から全国へ発信することができた式典となりました。



大田市ふるさと情報誌

**VOL.48**

2021.9

# 教員から農家へ 地域と共に成長する農家



アスパラガスを収穫する幸村さん



## 【プロフィール】

- ・氏名 幸村 暁さん
- ・所在地 鳥井町鳥井
- ・名称 幸村農園
- ・その他 H24年Uターン・農林大学校入学  
→H25年新規就農

大田市鳥井町で、アスパラガス、トマトを中心に野菜を生産する幸村さん。  
東京からUターンし、農家へキャリアチェンジしました。  
地域とつながり、地域の食を支える基盤づくりを進めています。

## ◆新規就農のきっかけは？

大学進学をきっかけに上京し、卒業後は都内で高校の教師をしていましたが、父親の病気をきっかけにUターンしました。仕事を探していたところ、父親が趣味で栽培していた野菜づくりに興味を持ち、大田の農林大学校で1年間研修を受けたのちに、新規就農しました。

## ◆新規就農から現在まで

就農する際は、農地の確保や資金

面など様々なハードルがあるのですが、行政の手厚い支援があり、安心してスタートを切ることができました。  
就農後も、施設や農業機械の導入など、様々な支援制度を活用して、栽培面積の拡大に取り組むことができます。  
そういった充実した支援制度や周囲に気軽に相談できる環境もあり、順調に売上を伸ばすことができています。

## ◆地域とのつながり

大田にUターンした後で、最も強く感じたことは、「地域とのつながりの大切さ」です。  
天候や病害虫など、農業には予想外の問題を抱えることは多くありますが、そんな時でも、地域の生産部会の皆さんがアドバイスをくれたり、支援機関へつないでくれたりと、親身になってサポートしてくれます。

また、当初は栽培・収穫・袋詰めまで一人で行っていましたが、「農福連携」に興味を持ち、行政に相談したところ、地元の方が、障がい者施設とご縁が生まれました。出荷に伴う作業を施設の利用者の皆様に委託することにより、安定的な生産・出荷に結びついています。

そのような周囲の環境に、「新規就農者を大切に育てたい」という地域の共通した想いを強く感じています。

## ◆今後の抱負について

この地域は人口が減少しており、農業生産者も高齢化が進ん

でいます。

担い手を確保するために、自身の就農体験をセミナーで語ることや就農体験の受け入れなどを通じて、農業の魅力を伝えていきたいです。

また、自分一人の活動では限界があります。今後は、短期的ではなく、より先を見据えた継続できる農業のカタチを生産者と地域が一体となって作り上げ、希望を持って就農できる基盤を整備したいと考えています。

## 《新規就農支援制度》

- ・農業体験に係る滞在経費等の助成
- ・農林大学校研修費用の助成
- ・各種農業機械やハウス取得費用の助成

●大田市では、関係機関や生産者が一体となって、新規就農者のサポートを行っています。  
「農業に興味がある」「これから農業を始めたい」など、どんな些細なことでも、お気軽にご相談ください。

## 【問い合わせ先】

大田市役所農林水産課  
TEL: 0854-18318084

※紹介した支援制度は一例です。活用には様々な条件があります。

## トピックス

大田市では、生産者 関係機関が一体となり、アスパラガスの産地化に取り組んでいます！  
『やませ！大田市の特産品農産物No.1（1億円突破！）』をスローガンに日々、栽培技術の向上・研修に取り組んでいます！

## ふるさと大田出身学生応援事業

昨年に引き続き、親元を離れて大田市外の大学等へ進学し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている大田出身の学生の皆さんへ、大田の特産品をお届けします！ご家族やご友人など、身近な対象の方へぜひご紹介ください。



詳細・お申込みはこちらから  
(大田市公式ホームページ)

- ①・②いずれかを選択してお申込みください。

## ～学生の方からの声～



- ★県外へ進学し、大田市の魅力について再確認しました。いつか必ず大田市に戻りたい、貢献したいと考えています。
- ★帰りたくても帰れないもどかしさを抱えながら生活していた中で、今回のお米は大田を思い出させてくれました。

ふるさとの特産品を食べて、大田市を思い出してくださいね。

# シリーズ石見銀山④8

## 石見銀山をわかりやすくするための「石見銀山学」

石見銀山遺跡は、「わかりにくい世界遺産」とよく言われます。わかりにくいとされる理由は、石見銀山に未解明な部分が多いことありますが、石見銀山を明快に紹介する方法がなかったこともその一つでした。そのため、大田市では石見銀山が世界遺産に登録されてから5周年の2012年に、地域研究として「石見銀山学」を立ち上げ、石見銀山を調査するとともに、その成果を本にまとめて刊行する事業を進めています。

この事業では、ワークショップを開いて広く意見を求め、歴史や自然などの専門家や教育に携わる方々による編集委員会での検討を重ねて、本の内容をまとめていきました。

最初に刊行したのは『石見銀山ことはじめ わたしたちの石見銀山』で、世界遺産としての石見銀山をフルカラーで紹介しています。大田市では5年生以上の市内の小・中学生に配布しており、主に石見銀山を学習するための副読本として活用しています。

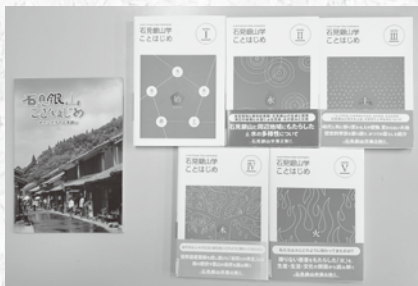
2017年からは概説書『石見銀山学 ことはじめ』シリーズの刊行が始まりました。石見銀山学が始まって間もない頃に実施したワークショップでは、概説書に取り上げてほしい事柄として、100

に迫るキーワードが寄せられました。それらを陰陽五行の「木火土銀（金）水」にもとに分類し、巻ごとの構成を整理しました。

これまでに、石見銀山の通史を紹介する『I 始』、石見銀山と地域の関りを取り上げた『II 水』、石見銀山と周辺地域の景観を地質と歴史の両面から紹介する『III 土』、銀生産や暮らしで活用された木々に注目した『IV 木』、産業・生活・信仰の「火」を取り上げた『V 火』の、5巻を刊行しています。2022年7月の世界遺産登録15周年には『VI 銀』を、2023年には『VII 継』を刊行してシリーズが完結する計画です。

いずれも石見銀山の関連施設や山陰地域の書店で販売しており、ふるさと納税の返礼品にもなっています。

石見銀山のことを知りたい、勉強したいと思った時には、まずは二つの『ことはじめ』からはじめることをおすすめします。



2つの『ことはじめ』

大田市は、ユネスコの「平和と人権尊重」の精神に基づき、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の保全と活用をすすめています。

お問い合わせ先  
大田市教育委員会石見銀山課  
☎0854-83-8134

## おおだ空き家情報

令和3年9月1日現在

空き家情報はおおだの定住PRサイト『どがどが』でご覧いただくことができます。大田市役所まちづくり定住課 <☎0854-83-8029>にご相談ください。

貸したい！  
売りたい！  
空き家随時募集中！

大田の定住PRサイト  
「どがどが」はこちらから→



### 大田町 賃貸：月額4万円

大田町のほぼ中央に位置する木造2階建ての賃貸住宅です。1階は広い物置で、2階が住居スペースです。駐車場がないため、近隣で借りる必要があります。

【物件番号：110073】



### 大森町 売買：270万円

石見銀山のある大森町の銀山川沿いに位置する木造平屋建てです。街中から少し離れており、日当たり良好です。※保存地区指定区域のため、改修工事に制約あり

【物件番号：150014】

# ふるさととは 今

## 鈴木良拓さん × Iターン

### プロフィール

福島県出身。2012年に群言堂への就職をきっかけに大森町にIターン。群言堂での経験を経て2019年に就農。現在は、大森町や三瓶町にある畑や田んぼで農作物を栽培されています。

鈴木さんが手がける畑のコンセプトは「小さな森のような畑」。高木・低木・下草が混生していたり、土の中に様々な微生物がいたりする自然本来の森にならない、畑でも同じ環境を作って作物を育てるといふもの。畑では様々な種類の作物が混生して育てられています。大森町で農業に挑戦される鈴木さんにインタビューしました。



### ● Iターン後、群言堂での活動の中で、大森の自然と関わることが多かった鈴木さん。大森町で農業に携わることについて

ここ数年で大森町も休耕田が増えてきて、今まで田んぼとして見慣れていた風景が雑草原っぱになってしまうのは寂しいと感じていました。就農するまで経験や知識はほとんどなく、プロの方にお話を聞きに行ったり、講習を受けたりするなど、勉強と同時進行で農業に取り組んでいます。

また6月になると蛍が飛んだり、銀山川の下流にはウナギがいたり、大森町のそういった環境が好きで、できるだけ環境を壊さないやり方で農業がしたいと思っていました。農薬や化学肥料、ビニール資材に頼らず、持続可能な循環型の農業で栽培する自然農法というやり方で畑づくりに取り組んでいます。

### ● 大森町の暮らしについて “やりたいことを試せる場”

いろんなことを、自由にできるキャパシティは広いと感じます。

Iターンして感じたことは、地域の方々が移住者の方に対して優しく、排他的な空気感がないということでした。移住して間もない頃に、「今から山菜を採りに行くから一緒に行こう」と声をかけてくださったり、就農してからはお子さんのお迎えの帰りに畑に立ち寄ってくださったり。元々移住することに不安はありませんでしたが、地元の方との距離が近いことが、移住後の暮らしや仕事をしていく上で大きいと感じました。



▲ビニール資材等の代わりに刈り取った草を畝に敷いていく鈴木さん。

### ● 現在、奥さん、お子さんと居住されている鈴木さん。“このまちで、子育てをしながら働くことに楽しさを感じています”

私も幼い頃に山に連れて行ってもらった時間が楽しかったので、自分の子どもたちにも同じような体験をさせてあげたいと思っていました。動物のお世話をしたり、保育園から帰ってきてミニトマトを採りに行ったり。子どもたちも飽きずに畑にいます。また、大森小学校の畑の監修もさせていただいて、児童のみなさんと一緒に野菜を植えたり草を刈ったりしています。畑がある先に小学校と保育園があるので、下校時に子どもたちが畑にある鶏の産卵箱をのぞき込んで「何個あったよ!」と教えてくれることもあり、子どもたちが自然を体験する機会を作ることは大切だなと感じています。

### ● 大田市の魅力について

大田市は海が近いし、でも大森は山が近く山菜が採れたり、猪が獲れたり、食べ物やお酒が美味しいです。Iターンする前は気づきませんでしたが、「食」というところがすごく豊かな場所だと思います。

### ● 今後の展望について

現在、三瓶でブルーベリーを栽培していて、そちらはオンラインストアで販売をしています。今後は、大森町で栽培している農産物についても、販売を目指して取り組んでいきたいと思っています。

鈴木さんの農産物についてはこちらから⇒



SUZUKI FARMS  
ONLINE SHOP

鈴木さんのInstagramはこちらから⇒



鈴木さんInstagram  
suzuki\_mogusa

## YouTubeにて大田市が舞台のWebドラマ公開中!



©島根県大田市PR動画「oda/side-A, side-B」

女優・三吉彩花さんが一人二役に初挑戦した大田市が舞台のWebドラマ。それぞれ異なる目的で大田市を訪れた2人の女性は、大田の自然・人々・食や伝統文化と出会う中で、旅の素晴らしさを再発見していきます。

side-Aとside-B、ぜひ見比べてお楽しみください!



「oda/side-A」 「oda/side-B」

「oda/side-A」 「oda/side-B」 検索

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行/大田市役所政策企画部まちづくり定住課 ☎: 0854-83-8029 FAX: 0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail: o-tiiki@city.ohda.lg.jp

この情報誌は令和3年度より、年2回の発行、また全4ページでの制作に変更いたしました。引き続き、内容の充実に努めて参ります。